

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 一糸座
公演団体名	糸あやつり人形一糸座

内容
<p>1) 日本の伝統的糸あやつり人形の構造・歴史を学びます。 (人形を遣いながら分かりやすく解説します)</p> <p>2) 古典のセリフを全員で言う。腹の底から声を出すことで伝統芸能の発声を体験します。</p> <p>3) 人形を遣う基本となる足踏み、歩くという稽古を交代で行います。 日本に伝わる、糸で操る人形の複雑な仕組みを知ることができます。</p> <p>4) 公演演目「東海道中膝栗毛」に参加するための稽古を行います。 本番では4名に出演してもらいます。実際に人形を遣ってみて、本番への参加意欲を持ってもらえるよう、体験してもらいます。</p> <p>糸あやつり人形にとって、歩くという事が一番大切で難しい事です。まず人形が歩く事ができて、それから色々な表現ができます。初めて人形を遣う時は、上手く歩かせることができません。人形を歩かせるという事がどんなに大変な事かを体験してもらい、それを表現にまで高める事の大切さを知ってもらいます。ものには必ず始まりがあり、基本があります。歩くというその地道な努力が日本の芸能の土台を作り、その先にある伝統的な演技に繋がります。全ての芸能の始まりは、地味な反復練習から始まるという事を、ワークショップを体験する事で、少しでも知って頂きたいと思えます。</p>

タイムスケジュール (標準)					
9:00 到着	10:30 準備	12:00 ws開始	12:00 終了	13:30 片付け・打ち合わせ	13:30 学校退出

派遣者数
6名

学校における事前指導
特にありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 一糸座
公演団体名	糸あやつり人形一糸座

演目

■橋弁慶

■伊達娘恋緋鹿子一八百屋お七火の見櫓の場一

■東海道中膝栗毛(赤坂並木から卵塔場)

原作:十返舎一九 監修:結城一糸 脚色(生徒出演用):結城一糸

公演時間(約 80～85 分)

派遣者数

出演者 12名

スタッフ 6名 計18名

タイムスケジュール(標準)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～12:00	13:30～15:00	10分	15:30～17:00	17:00

実施校への協力依頼人員

- ・ピアノが舞台上にあり、上演の支障になる場合は移動をお願いする場合があります。
- ・舞台上に学校の道具などが置いてある場合は、公演当日前までに移動をお願いする場合があります。

演目解説

◆橋弁慶・・・牛若丸は、京都五条大橋で毎夜通行人に腕試しを挑み、家来にすべき勇士を探しています。一方、比叡山の武蔵坊弁慶は、五条大橋で通行人を悩ます者の噂を聞き、これを従えようと、五条大橋にやってきます。そこで初めて弁慶と牛若丸は出会います。牛若丸が腕試しに弁慶の大薙刀の柄を蹴り上げると、怒った弁慶は薙刀を振りかざして切りかかりますが、牛若丸はヒラリヒラリと橋の欄干を飛び回り、とうとう打ち負かしてしまいます。弁慶はその若者が牛若丸と聞いて降参し、主従の契りを結びます。

◆伊達娘恋緋鹿子・・・お七のいいなづけの吉三郎は主人が刀を盗まれてしまい、それを取り戻さないと切腹しなければならない。吉三郎を助けるため、お七は盗まれた刀を見つけ、その刀を吉三郎に届けようとするが木戸が閉まっていて届けることができない。お七は火事と偽って火の見櫓の太鼓を打ち、木戸を開けさせ刀を届けようとする。八百屋お七の名場面をご覧ください。(江戸時代は夜には町々の木戸が閉められ通行ができなくなっていました)

◆東海道中膝栗毛・・・弥次郎兵衛と喜多人は、ヒョンな事から江戸を飛び出し、上方に向けて呑気な旅を続けている。そしてここは赤坂の宿はずれの並木道。日も暮れてあたりが薄暗くなり、二人は道を間違えて卵塔場(墓場)に迷い込んでしまう。臆病な二人は、そこにやって来た子どもを一つ目小僧と間違え殴ってしまうが、その子は酒を買いに行った子どもだったので大きな声で泣き出してしまふ。その声を聞きつけたおじいさんがやって来て、弥次郎兵衛の胸ぐらをつかみ、何故孫を殴ったと問い詰める。弥次郎兵衛、喜多人の道中記を、軽妙な江戸前のセリフと浄瑠璃でお楽しみ頂きます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

4名の出演希望者に、「東海道中膝栗毛—赤坂並木から卵塔場—」演目の中で、村人の人形を遣って出演してもらいます。

ワークショップの時、出演希望の生徒さんに、出演のための稽古を行い、公演当日も本番前に本番通りの稽古を行います。

舞台衣装は、人形遣いと同じものを団体で用意します。

児童生徒とのふれあい

人形を近くで観たいとか、触ってみたいという生徒さんには、公演後時間の許す限り、舞台下で、人形に触れる時間を取りたいと考えています。

体育館からの退出の際、出口付近で人形たちが生徒さんを見送ります。

